

#22 キリストはヤコブから出て来た星である

(民数記の結晶の学び)2019/10/21-27

I. 民数記24:17は、「一つの星がヤコブから出て来て」と言います。この星は、キリストを指しています:

マタイ2:1 さて、ヘロデ王の日に、イエスがユダヤのベツレヘムで生まれた後、見よ、星観測者たちが東からエルサレムに着いて、言った、**2** 「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？ 私たちは彼の星が昇るのを見たので、彼を礼拝しに来ました」。A. この予表の成就是、星観測者(東方からの学者)の言葉の中に見いだされ、それはマタイ2:2に記録されています、「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？ 私たちは彼の星が昇るのを見たので、彼を礼拝しに来ました」:

1. 星観測者は、「私たちは『一つの』星を見た」とか、「私たちは『その』星を見た」と言ったのではなく、「私たちは『彼の』星…を見た」と言いました。**2.** このことは確かに民数記24:17の成就です。この節において語られている星は、これらの学者に示されました。それはイスラエルの民のだれにも現れませんでした。**民24:17** 一つの星がヤコブから出て来て、**3.** ユダヤ人は、キリストに関する聖書を持っており、彼がどこで生まれるかを知っていましたが、星観測者は、キリストの星を見ました。**4.** ユダヤ人は、キリストがどこで生まれるかに関する文字の知識を持っていましたが、東方からのこれらの学者は、彼についての生けるビジョンを受けました。最終的に、その星は彼らをキリストがいる場所に導きました。**5.** キリストは真の太陽ですが、厳密に言って、彼は夜の時代には太陽として現れません。むしろ、彼は星として輝きます。星は夜に輝きますが、それは昼が来つつあることを示します。**6.** キリストは一度目に来たとき、公に星として現れましたが、二度目に来的时候、彼の来臨を、目を覚まして待ち望んでいる彼の勝利者たちにとって明けの明星となります。他のすべての人たちにとって、キリストは太陽として現れます。

B. マタイ2:1~12は、キリストを見いだすことが生ける事柄であることを啓示しています。それは単なる聖書の教理的な知識の事柄ではありません:**1.** その星は、真の宗教から遠く離れて、聖地の宮から遠く離れて、ユダヤの宗教の中心から遠く離れて、祭司、聖書学者、パリサイ人、すべての宗教的な人々から遠く離れて現れました。反対に、異教の地にはキリストからのものを示す星がありました。

2. ただ聖書を私たちの手にして、キリストがベツレヘムで生まれることになっていると言っているミカ5:2を読むだけでは、役に立ちません。私たちは聖書を持っているかもしれませんが、天の星を見失っているかもしれません。**ミカ5:2** (しかし、ベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの千万の間で最も小さいが、あなたから私へと、イスラエルの支配者となる者が出て来る。また、彼の出て行くことは太古から、永遠の日々からである)。**3.** 星は、生ける啓示であり、生けるビジョンであって、聖書の古くて死んでいる教理的な知識ではなく、ミカ5:2の死んだ知識でもありません。今日私たちが必要とするものは、単なる聖書の知識ではなく、天のビジョン、今日の即時的なビジョン、生けるビジョン、人の観念が決して教えることのできないビジョンです。**4.** 私たちは聖書の知識を持っていても、依然として即時的な、今日の生ける星が私たちを、イエスがおられるその街、その家に導くことを必要とします。 **月**

5. 生けるビジョンを受けた後、星観測者は人の観念によって誤って導かれて、ユダヤの国の首都であるエルサレム、すなわち、その王が生まれると思われていた所に行きました。彼らが誤って導かれたことによって、多くの幼い男の子

たちが殺されました。**6.** 彼らがエルサレムに到着し、ユダヤ人の王がどこで生まれるかに関して訪ねた時、「**ヘロデ王**はこれを聞くと当惑し、エルサレム全体も彼と共に当惑した(マタイ2:3)」と書かれています:**a.** 彼らはこの知らせを聞いた時、喜ぶべきでしたが、彼らは当惑しました。**b.** 主が来ることを期待している、あるいは携え上げられることを期待しているクリスチャンは、このことを警告として受け取るべきです。

7. 星観測者は聖書によって正された後、ベツレヘムに行きました。すると、星が再び彼らに現れ、イエスがおられる場所に彼らを導きました。「彼らはその星を見た時、大いに喜び歓喜した」。**マタイ2:9-10** 彼らは王の言うことを聞いて、行った。すると見よ、彼らが昇るのを見たあの星が彼らを導き、その子供がいる所に来て、その上にとどまった。彼らはその星を見た時、大いに喜び歓喜した。

8. 星観測者が聖書によって正され、正しい路線に戻された時、その星は彼らに再び現れました。生けるビジョンは常に聖書に伴います。**9.** 祭司は、律法を教える者たちであり、聖書学者は、聖書を知っている者たちでした。祭司と聖書学者はいずれも、キリストの誕生に関する知識を持っていましたが、東方からの星観測者とは異なり、ビジョンを見ず、キリストを尋ね求める心も持っていませんでした。

10. 私たちがどれほど「聖書的」であるかにかかわらず、もし主の臨在を失うなら、私たちは完全に間違っています。主を見だし、従っていく新約の道は、彼の隠れた臨在の中に絶えずとどまることです。**出33:11** 人が自分の仲間に語るように、エホバは顔と顔を合わせてモーセに語られた。

11. 聖書の知識を蓄えることは容易ですが、もし私たちが生ける導きを持つとするなら、主との親密な関係の中に生きなければなりません。私たちは彼と一でなければなりません。**12.** 星観測者はキリストを見て、礼拝しました。それから彼らは夢の中でヘロデの所に戻ってはならないと神に警告されました。ですから、彼らは「別の道を通って」、自分たちの国へと旅立ちました。私たちはいったんキリストを見たなら、決して同じ道、すなわち、キリストから離れた宗教の道を取らず、常に別の道を取ります。 **火**

II. キリストに忠信に従う者たちは、輝く生ける星たちであり、彼らは輝く生ける星としてのキリストに従って彼の複製となります: **A.** キリストは、神のエコノミーの中心性また普遍性であり、生ける星たちは、キリストの天的で、生きた、最新の、即時的なビジョンに従います。

B. 生ける星たちは、神の民を祝福する者です。私たちは、神の民のために主を賛美し、信仰の中で彼らについて積極的に語れば語るほど、ますます自分自身を神の祝福の下に置きます。

C. 生ける星たちは、聖書の預言者の言葉を、「暗い所に輝くとし火として」、よくよく心にとめており、明けの明星としてのキリストを日ごとに彼らの心に昇させます。私たちが暗い所にとし火として輝く聖書の言葉をよくよく心にとめるなら、彼が実際に明けの明星として出現する前に、彼は私たちの心に昇り、今日私たちがいる背教の暗やみの中で輝きます。**IIペテロ1:19**(水曜) また、私たちはさらに堅くされた預言者の言を持っています。夜が明けて明けの明星があなたがたの心に昇るまで、その言を、暗い所に輝くとし火のように、よくよく心にとめていなさい。

啓22:16 …私はダビデの根また子孫であり、輝く明けの明星である。**2:28** 私はまた、彼に明けの明星を与える。

1. 明けの明星の原則によれば、クリスチャンは朝早く起きるべきです。なぜなら、早朝は主に会う(神と交わり、賛美し歌い、務めの言葉をもって聖書を祈り読みし、主に祈る)最も良い時間であるからです。**詩53** エホバよ、…朝、

私はあなたのために備えをして、見張ります。**90:14** 朝には、あなたの慈愛で私たちを満ち足らせ、私たちのすべての日に、喜びの叫びを響きわたらせ、喜び楽しむようにしてください。**2.** 彼は、彼を愛し目を覚まして彼を待ち望んでいる人たちに対して、ご自身を明けの明星としてひそかに与えます。それは、彼が久しく離れていた後に再臨するとき、彼らが彼の臨在の新鮮さを味わうためです。

D. 生ける星たちは、七倍に強化された霊を享受し、七倍に強化された霊で満たされています。七倍に強化された霊は彼らを神の建造のために、生き生きとすることを強化し、輝くことを強化します。**啓4:5** 御座からは、いなずまと声と雷鳴とが発している。そして七つの火のともし火が、御座の前で燃えていた。この七つの火のともし火は、神の七つの霊である。

E. 生ける星たちは召会の使者です。彼らは霊なるキリストを、神の使者として、また神からの新鮮なメッセージとして享受し、経験します。それは、彼らが新鮮な現在のキリストを神の民の中へと分与して、イエスの証しとすることができるためです。**啓2:1(水曜)** 右の手に七つの星を持つ者…が、こう言われる。

F. 生ける星たちは、「心に大きな決意」と「心に大きな探求」を持っています。彼らは神を愛する者であり、「その軌道から」戦った星のようであって、神と共に彼の敵と戦って、「力強く昇る太陽のように」なります。

ダニエル12:3 思慮深い人たちは大空の輝きのように輝き、多くの者を義に導く者は星のように永遠に至ります。

G. 生ける星たちは、エホバを畏れ、彼のしもべの声を聞き、エホバに信頼する人たちです。それによって彼らは暗やみの中を歩いているとき、光を持ちます：**イザヤ50:10** あなたがたのうち、だれがエホバを畏れ、だれが彼のしもべの声を聞くのか？ だれが暗やみの中を歩いて、光を持たないのか？ エホバの御名に信頼し、自分の神に依り頼め。**11** 見よ、あなたがたはみな火をともし、たいまつを身に帯びて、自分の火の光の中を、また自分がともしたたいまつの中を歩く。あなたがたはこれを私の手から得て、苦しみのうちに倒れ伏す。**1.** 自分自身のために光を作り、神の光の中ではなく、自分で作った光の中を歩く人たちは、苦しみを受けます。**2.** このことは私たちにとって警告であるべきです。それによって私たちは、自分自身のために作る光の中を歩くのではなく、神によって与えられた光の中を歩きます。**3.** 「ヤコブの家よ、来たれ。私たちはエホバの光の中を歩もう」(イザヤ2:5)。

H. 生ける星たちは、神の回復とさらに進んだ創造からなる第四日に立てられた星によって予表されています。彼らは輝くことによって支配します。輝きがあるところに、命の成長のための支配があります：**創1:16-18** 神は二つの大きな光体を造り、大きいほうの光体には昼を支配させ、また小さいほうの光体には夜を支配させ、また星を造られた。…神はそれら[が]…地上を照らさせ、昼と夜を支配し、光と暗やみを分離するようにされた。**1.** 変貌の山で主イエスが輝いたことは、王国が力の中で到来することでした。この輝いたことは、実は三一の神の支配する臨在です。

2. 神の王国は、神の支配、神の統治であって、そのすべての祝福と享受を伴っており、主イエスの輝きです。王国は、主イエスが私たちの上に輝くことによって拡大することです。**3.** 王国は、主イエスの実際の輝きです。彼が私たちの上に輝き、私たちが彼の輝きの下にいるときはいつでも、私たちは神の王国の中において、私たちの内側での神の支配と統治の下にいます。それは私たちの命の成長のためです。**命**

I. 消極的な面で、ある人たちは「さまよう星」です：

1. さまよう星の比喩が示しているのは、気まぐれな教師たち、背教者たちが、天的な啓示の不変の真理に確固として定着していないで、神の星のような人たちの間をさまよい歩いていたということです。**ユダ13** さまよう星であって、彼らのために暗黒の暗やみが、永遠に用意されています。

2. 彼らの運命は暗黒の暗やみであって、それは彼らのために永遠に用意されています。気まぐれな背教者たちは、今日さまよう星ですが、彼らはやがて暗黒の暗やみに閉じ込められます。**3.** 私たちはまた、だれであれ私たちが真の地方召会から離し、主の民と共に召会の立場の上で集まることから私たちを離す人たちを、さまよう星であると言います。真の星たちは、多くの人を義に転向させ、人々をそらすのではなく、正しい道に転向させる人たちです。

4. 今日、その生ける星と生ける星たちは、私たちから遠く離れているのではなく、キリストのからだの実際的な表現としての地方召会の中において、地方召会と共にいます。

啓1:20 あなたが私の右の手に見た七つの星と、七つの金の燭台の奥義はこうである。七つの星は七つの召会の使者たちであり、七つの燭台は七つの召会である。

5. すべての地方召会の中には、生ける星たちがいます。私たちはただ彼らと接触し、彼らと共にいる必要があります。彼らは私たちを、イエスのいる所に導きます。

J. どうか主が私たちをあわれんでくださり、私たちが常に正しい道に保たれ、主に会い、主を礼拝し、私たちの愛を主にささげますように。どうか主が私たちすべてを星観測者のようにしてくださり、生ける星に従って行ってキリストを見いだし、生ける星たちとして彼の複製となりますように。

**Crucial Point(1): 絶えず主の臨在にとどまり、
生ける星によって導かれる**

OL1: 星は、生ける啓示であり、生けるビジョンであって、聖書の古くて死んでいる教理的な知識ではなく、ミカ5:2の死んだ知識でもありません。今日私たちが必要とするものは、単なる聖書の知識ではなく、天のビジョン、今日の即時的なビジョン、生けるビジョン、人の観念が決して教えることのできないビジョンです。

OL2: 私たちは聖書の知識を持っていても、依然として即時的な、今日の生ける星が私たちを、イエスがおられるその街、その家に導くことを必要とします。

OL3: ユダヤ人たちはユダヤ人の王が生まれると聞いて当惑しました。主が来ることを期待している、あるいは携え上げられることを期待しているクリスチャンは、このことを警告として受け取るべきです。

OL4: 私たちがどれほど「聖書的」であるかにかかわらず、もし主の臨在を失うなら、私たちは完全に間違っています。主を見いだし、従っていく新約の道は、彼の隠れた臨在の中に絶えずとどまることです。

ミカ5:2は聖なる書、聖書であり、イエスがベツレヘムで生まれることを予言しています。しかしながら、その節だけでは、あなたはイエスを見いだすことはできないでしょう。あなたはどの町でイエスが生まれるかはわかっても、どの通りで、あるいはどの家であるかということにはわかりません。…たとえあなたに聖書の知識があつたとしても、あなたはなおも、イエスがおられるその通り、その家にまであなたを導いてくれる即時的な、最新の、生ける星を必要とします。…聖書の知識を蓄えることは容易ですが、もしあなたが生ける導きを持つとするなら、主との親密な関係の中に生きる必要があります。あなたは彼と一である必要があります。

青少年・大学生編

あなたは聖書を読むとき、必ず自分の心を開き、自分の霊を活用して御言葉を祈り読みし、主ご自身に触

れ、主の臨在を享受してください。主の臨在なしに、御言葉を知識として得るだけでは、決して今日のビジョン、生けるビジョンを持つことはできません。主が誕生するときに聖書学者たちは御言葉に従って彼がベツレヘムで生まれることを知っていましたが、彼らは主ご自身を探し求めず、かえって主の誕生に非常に困惑しました。彼らは旧約聖書に精通しているにも関わらず、全く生けるビジョンを持っていませんでした。その結果、彼らは主が来られることを迷惑なこととしてとらえたのです。彼らは御言葉の知識に加えて、生けるビジョンにより、ベツレヘムの特定の地方の、特定の家まで導かれるべきでした。ヨハネ 5:39 **あなたがたは聖書を調べている。なぜなら、その中に永遠の命があると思っているからである。しかし聖書は、私について証しするのである。40** **しかしあなたがたは、命を得るために私に来ようとはしない。**

あなたが今日の生けるビジョンを持つ最上の方法は、回復訳聖書とフットノートを祈り読みすることです。以下の回復訳聖書の序文を読んでください。「聖書の翻訳は、言語への十分な把握だけではなく、神聖な御言葉における神聖な啓示の正しい理解にも基づいています。歴代、聖徒たちが持った神聖な啓示の理解は、彼らの受けた光に基づいており、この理解は着実に前進してきました。この翻訳とフットノートは、この理解の集大成に基づいています。ですから、この訳とそれに付随するフットノートは、あらゆる場所の聖徒たちが過去二千年に到達した神聖な啓示の「結晶」と呼んでもよいでしょう。回復訳が、受け継がれてきたものを継続し、これからの世代に道を整えることを、私たちは願っております。

御言葉を祈り読みして、御言葉を根拠に生きたビジョンを持つなら、あなたは生ける星によって導かれるでしょう。決して自分なりの聖書解釈や自分の天然的な観念によって導かれ、歩んではいけません。そこにはキリストがおられません。キリストの誕生を見いだすために、生ける星によって導かれるべきです。高校生になると、進路において文系と理系に分かれたり、大学受験などの受験校を選択したり、卒業後、就職先の選択やその後の転職などの選択に迫られます。もしあなたが生ける星によって導かれるなら、あなたは新たな環境でキリストを見いだすことができ、祝福されます。

祈り:「おお主イエスよ、私は聖書を読むとき、主の御名を呼び求め、あなたの新鮮な臨在を求めます。聖書は単なる知識の本ではありません。御言葉を祈り読みするとき、あなたは私に新鮮なビジョンを与えてください。これが生ける星です。私の天然の観念や好みではなく、この生ける星が私の全生涯を一步一步導いてください。それは私がキリストをさらに得るためです。」

Crucial Point(2):生ける星としてのキリストの複製となり、暗闇の中で輝き、召会と兄弟姉妹を祝福する

OL1:キリストに忠信に従う者たちは、輝く生ける星たちであり、彼らは輝く生ける星としてのキリストに従って彼の複製となります。

OL2:生ける星たちは、神の民を祝福する者です。私たちは、神の民のために主を賛美し、信仰の中で彼らについて積極的に語れば語るほど、ますます自分自身を神の祝福の下に置きます。

OL3:明けの明星の原則によれば、クリスチャンは朝早く起きるべきです。なぜなら、早朝は主に会う(神と交わり、賛美し歌い、務めの言葉をもって聖書を祈り読みし、主に祈る)最も良い時間であるからです。

キリストご自身が星であるだけでなく、彼に従う者た

ち、諸召会の中で輝いている者たちも星です。使徒行伝と書簡で、導く者たちは長老と呼ばれていましたが、聖書の最後の書で、彼らは星たちです。今やそれは称号や地位の事柄ではなく、輝きの事柄です。諸地方召会の中の導く者たちはみな輝く星たちであるべきです。

「星」に用いられている言葉は、英語の「発光体」という言葉にも訳すことができます。この星は、発光体のようなもので、暗やみに光をもたらします。…聖書は単なる白黒の文字であるべきではありません。それは、死んだ文字であるべきではありません。私たちは、発光体のようなもの、すなわち明けの明星としてのキリストが私たちの内側に昇るまで、聖書の言葉をよくよく心にとめていなければなりません。

時には、私たちは聖書を取ってそれを読んでも、何も受けないと感じるかもしれません。しかしながら、別の時には、私たちが心を開いて、この預言者の言葉をよくよく心にとめるとき、内側で何かが輝き、昇り、明るくなり、現れ出ます。私たちが聖書の節を祈り読みしているとき、内側深くには照らし、輝きに対する感覚があります。そしてこの輝きは、主イエスに対する愛を造り出します。私たちは、彼がとても愛らしいと感じます。…多くの時、この輝きによって私たちは主イエスへの愛で我を忘れてしまいます。それは、夜明けとして、私たちの心の中に昇る明けの明星として、私たちに来られるイエスです。…何度も、私がこの聖なる言葉と共にいた時、何かが夜明けのように私の内側に昇りました。ああ、これはすばらしいです！ 状況は明るくなく、周りの環境も暗やみに満ちているかもしれませんが、内側で何かが照らし、輝き、栄光で満たしています。

主に会い、主と接触し、主と交わる最も良い時間は早朝です。マナは太陽が昇る前に集められます。神の食物を食べたい者はだれでも、早く起きるべきです。日が熱くなる時、マナは溶けてなくなります。私たちは霊的な養いと霊的な啓発を受けたいなら、霊の交わりと霊の供給を得たいなら、早く起きる必要があります。

私たちは一日の最も良い時(早朝)を、別の事ではなく、神の御前で費やすべきです。あるクリスチャンは一日中、別の事で費やし、寝ようとする夜になってはじめてひざまずいて聖書を読み、祈ります。彼らが聖書を読み、祈り、主と交わっても効果がないのも不思議ではありません。…私たちは主を信じたらず、早朝を神と交わり、神と接触するのに取り分けておくべきです。

新人編

救われた新人の皆さんは、生ける星としての主に忠信に従う者となり、あなた自身が暗闇の中で輝く星となってください。生ける星は神の民を導き、祝福します。聖書は召会と兄弟姉妹を祝福する言葉に満ちています。あなたはこれらの祝福の言葉を自分の霊を活用して祈り、享受し、思いの中の観念が更新されるようにしてください。そして霊を活用して信仰の言葉を他の人を祝福するために語ってください。

日本人は非常に細かいという特性を持っています。それが日本人の長所であり、短所です。この特性は、日本で製造した工業製品の厳しい品質管理には役に立っています。しかし、人間関係は工業製品のようにはいかないので、あまり細かいことに注意し過ぎると、その状況に落胆し失望する傾向が強くなります。救われた人としてあなたはもはや日本人ではなく、キリスト人、信者です。ローマ 10:17 **ですから、信仰は聞くことから来るのであり、聞くことはキリストの言葉によるのです。**Ⅱコリント 4:13 **また、**

「私は信じた、それゆえに私は語った」と書いてあるとおり、同じ信仰の霊を持っているので、私たちも信じ、それゆえにまた語るのです。御言葉を霊を活用して祈るとき、生きた信仰が注入されます。あなたは自分や人々の今の状況を信じるのではなく、神の言葉から来る信仰の感覚を信じてください。あなたが自分の天然の消極的な感覚を信じそれを語るなら、そうなってしまいます。しかしあなたが信仰の感覚を信じそれを語るなら、あなたは自分自身と他の人を祝福する人となります。

実際的に信仰の霊を持つために、あなたは朝早く起きて、御言葉を祈り読みし祈る「毎朝復興」を実行してください。そうすれば、あなたは思いが更新されて、自分の天然の消極的な感覚によって自分がのろわれていることに気づき、そこから救い出されます。祈り:「おお主イエスよ、私は自分の天然の消極的な感覚を信じないで、あなたの御言葉を取ります。朝早く起きて、すぐ霊を活用し、主の御名を呼び、御言葉を祈り読みします。私に信仰の霊を注入してください。信仰の霊をもって自分自身と聞く人を祝福する人にならせてください。アーメン！」

Crucial Point(3):霊の中と召会生活の中で、そらす「さまよう星」を避け、「生ける星」に従い正しい道を歩み実を結ぶ

OL1:さまよう星の比喩が示しているのは、気まぐれな教師たち、背教者たちが、天的な啓示の不変の真理に確固として定着していないで、神の星のような人たちの間をさまよい歩いていたということです。**ユダ13** さまよう星であって、彼らのために暗黒の暗やみが、永遠に用意されています。

OL2:彼らの運命は暗黒の暗やみであって、それは彼らのために永遠に用意されています。気まぐれな背教者たちは、今日さまよう星ですが、彼らはやがて暗黒の暗やみに閉じ込められます。

OL3:私たちはまた、だれであれ私たちを真の地方召会から離し、主の民と共に召会の立場の上で集まることから私たちを離す人たちを、さまよう星であると言います。真の星たちは、多くの人を義に転向させ、人々をそらすのではなく、正しい道に転向させる人たちです。

OL4:すべての地方召会の中には、生ける星たちがいます。私たちはただ彼らと接触し、彼らと共にいる必要があります。彼らは私たちを、イエスのいる所に導きます。

星には消極的な面もあります。それはさまよう星です。…私たちは星になるべきですが、さまよう星となつてはいけません。それらは偽りの指導者たちです。今日、非常に多くのクリスチャンは星ではありません。しかしながら、ある人たちは星ですが、彼らはさまよう星です。今日この部類には宗教的な指導者たちや教師たちがいます。

正常な星には、ある特定の位置と定まった軌道があります。それは自分の進むべき行程を着実に進み続けます。しかしながら、定まった位置も軌道も持たないいくつかの星があります。それらはさまよう星です。…彼らは輝いているように見えますが、彼らの輝きはまやかしです。…もしあなたが彼らに従って行くなら、誤って導かれ、最終的にどこへ行くべきかわからなくなるでしょう。…彼らには何の立場も、立つべき場所もなく、主と共に進むための特定の道がありません。今日、彼らは一つのことを言い、明日は別のことを言います。彼らはさまよっています。私たちは注意する必要があります。私たちはさまよう星に従って行っても、イエスを見いだすことはできません。

私たちはどのようにさまよう星を識別することができるでしょうか？ いくつかのしるしがあります。彼らは実を結ばない秋の木です。彼らは水のない雲です。私たちは実を見る必要があります。主イエスは、私たちは実に

よって木を知ることができると言われました。もし私たちがさまよう星に従って行くなら、最終的に私たちの分け前は彼らと同じものになるでしょう。すなわち、彼らのために永遠に取っておかれている暗黒の暗やみです。

私たちは、輝く星、すなわち確固とした立場と一定の行程を持っている人たちに従って行く必要があります。これらの人たちは安定した星であり、堅固な人たちです。もしだれかが、確固とした立場もなく、一定の行程もなしに私たちの所に来るなら、私たちは彼を避けるべきです。正当な立場は地方召会であり、正しい行程は地方召会の中で、またその霊の中で進んで行くことです。…私たちは正当な立場を取り、正しい行程に自分自身を保つ必要があります。

青年在職・大学院生編

10月中旬の大型台風の被害の時に、東京都のある区の避難所の責任者が、ホームレスの人たちを受け入れなかったことで、責められています。避難所の責任者は区民でないで避難所に入れることを拒否しました。このことは、「彼らが細かいルールに注意を払い、最も重要な人命の救済という点を見ていなかった」ということです。

あなたは物事のオーバービュー(Overview)と最重要点(Crucial points)を見極めた上で、詳細に入っていきべきです。想定外の事、ここでは「区民以外の人が区の税金で作った避難所に来ること」が起こった時、詳細のすべてをレビューするのではなく、オーバービュー:ここでは「そもそも避難所とは天災などで困っている人を避難させ、人命を守る」、そして最重要点:「台風で移動が難しいので誰であれ速やかに避難させ人命を守る」に注意して迅速に行動すべきでした。

召会の奉仕や聖書を追求することでも原則は全く同じです。あなたはオーバービュー(あるいは Bird's eyes view)と最重要点(Crucial points)を見て、奉仕したり、聖書を追求したり、あらゆることを行ってください。そうでないとあなたはさまよう星となつてしまい、一本筋が通っていないので本末転倒になってしまう、あるいは最重要点と詳細を並列にしてしまい多くの事を考えすぎて迅速に正しく決定できません。このようになると対応がコロコロ変わってしまいます。

オーバービューと最重要点を得るために、聖書に啓示された地方の一の立場に立つ地方召会の中で、霊に従って召会生活を実行してください。神は光であるので、神の家は光の家です。この家の中で自分の霊を活用することがオーバービューと最重要点を見る秘訣です。

箴言 20:27 人の霊はエホバのともし火であり、内なる存在の最も深い部分をすべて探る。

1コリント 2:11 いったい人の事柄は、人の中にある人の霊のほか、人の間でだれが知っているでしょうか？ 同じように、神の事柄も、神の霊のほかにはだれも知りません。

詩 73:16 私がこれを理解しようと考えたとき、私の目にそれはめんどろなことであった。17 私が神の聖なる所へと入り、彼らの最後に気づくまではそうであった。FN「神の聖なる所へと入り」第一に、神の聖なる所、神の住まいは、私たちの霊であり、第二にそれは、召会です。こうして、私たちは神の聖なる所に行くために、私たちの霊に戻り、召会の集会に行く必要があります。いったん私たちが聖なる所「霊の中と召会の中」にいるなら、…状況の別の見方を持つでしょう。私たちの霊の中と召会の中で、私たちは神聖な啓示を受け、すべての問題の説明を得ます。祈り:「おお主イエスよ、私をそらすさまよう星から守ってください。地方召会の中で生ける星たちに従い、ビジネス・ライフのあらゆることで、「霊の中と召会の中」でオーバービューと最重要点を見て、行動することを学びます。このようにして私がさまよう人になることから免れ、正しい軌道を歩み、実を結ぶ人になることができますように。」